

船橋税務署長賞

未来へ繋ぐ税

船橋市立若松中学校

第三学年 松 井 梨々花

「消費税の税率を十パーセントに引き上げます。」この会見は、二〇一九年にニュースで大きく取り上げられた。全国の人々が驚き、賛成や反対などの様々な声が上がる中、まだ小学生だった私は自分には関係ないものだと他人事のように感じていた。また、私は税は仕組みが複雑で子どもは理解できていなくて当然なものであると決めつけてしまっていたため、全く関心を持つていなかった。しかし、会見の翌日学校に行くと、担任の先生が私たちに「税は大人だけではなく君たちを含む国民全員のことを支えている存在です。」と言った。その一言は私にとってとても衝撃的で今でもはつきりと覚えている。そして私は税金は国民をどのような場面で支えているのかと疑問に思った。

ある日、私は体調不良で母と近所の小児科

を受診した。医者は風邪と診断し、数種類の風邪薬を処方してくれた。そして会計をする時、母は三百円を支払った。私は、色々なウイルスの検査をしたり、風邪薬を出してもらつたりしたのに三百円しか支払わなくても良いということにとても驚いた。すると母は私に「日本はアメリカに比べて医療制度が整っているからだ。」と教えてくれた。さらに調べてみると、日本とアメリカは医療制度に様々な違いがあるということが分かった。日本では国民全員が公的医療保険に加入する国民皆保険制度を導入しているため、医療費が安く済むのだ。それに対して、アメリカは六十五歳以上の高齢者、障害者を対象とするメディケアや低所得者を対象とするメディケイドという保険のみであるため、これらの制度を利⽤できない人は日本の倍以上にも及ぶとても暮らしがやすい未来に繋いでいくために、私は国民の一員であるということを忘れずにこれからも税に関心を持ち続けていきたい。

このような状況により、アメリカは日本と比べて気軽に医療を受診することが難しいのである。

日本では税は医療費の他にも、教育、公共施設、バリアフリーや道路、水道の整備、年金などの社会保障で国民のために利用されていて「誰もが暮らしやすい未来に繋いでいく」という役割がある。しかし、以前の私のように税がどのように利用されているか詳しく知らない人も多いはずだ。そのため、国民一人一人が税について知識を深めるべきである。仕方ないから協力するのではなく、「未来のため」「誰かのため」とあたたかい気持ちを持つて納税してほしいと思う。